

第6章 実現化方策

1. 計画の実現に向けた取り組み

(1) 計画的・戦略的な施策の推進

まちづくりは短期で実現できるものではなく、多くの時間や費用、人々の関わりが必要となります。人口減少・少子高齢化が進行する中、限られた人材と財源を活用し、計画的・戦略的に施策を進めることが重要です。これからのまちづくりにおいては、必要な施設整備を適切に行うほか、公共施設等の既存ストックを維持管理し、ニーズに合った多様な利活用を図ります。

(2) 計画推進の体制づくり

本計画の内容は、都市計画分野を柱としながら、産業や防災、環境保全等、様々な分野にわたるものです。関連する各部門で情報共有を図りながら、計画を確実に推進するための体制づくりを行います。

計画の推進にあたっては、町内における上位・関連計画をはじめとして、山形県の庄内圏域（北部）都市計画区域マスタープラン等、各計画と整合を図ることが重要です。また、日本海沿岸東北自動車道の整備等、国や県、関係機関とともに推進する事業については、広域的な連携・協力の体制をつくり、効率的なまちづくりを推進します。

(3) 住民・事業者・行政の連携

遊佐町がめざすまちづくりの基本理念や目標を実現するためには、行政が主導する取り組みだけではなく、このまちで暮らす住民、まちで活躍する民間企業や各種団体といった事業者とも連携し、同じ理念を掲げて取り組んでいくことが重要です。

できること・難しいことをお互いに補い合いながら、適切な役割分担のもと、まち全体の未来をよりよい方向へ進めていけるよう連携を図ります。

(4) 計画の進行管理

都市計画マスタープランは、20年という期間を見据えた計画であり、長期的な見通しを立てて取り組むべきものとなります。施策の進捗状況を適切に評価し、上位計画である遊佐町総合発展計画との整合を図りつつ、社会情勢やニーズの変化に対応しながら、必要に応じて施策の見直し・改善を行います。

施策の進捗状況等の評価・見直しを概ね5年ごと、計画の全体的な見直しを概ね10年ごとに行い、まちの現状に適した効果的なまちづくりをめざします。

2. 協働の意識づくり

計画の実現に向けて、遊佐町に関わる誰もがまちづくりに参画する、協働の意識づくりが重要となります。まちづくりへつながら意識づくりとして、2つのステップを示します。

(1) まちのことを知ろう！

まちづくりの前提として、まずは「自分が暮らしているまちがどんなところなのか」に関心を持ち、知るところから始まります。ゆっくり目を配りながらまちを歩いてみると、これまで気づかなかった風景が見えるかもしれません。また、当たり前で暮らしたと思っていることが、町外の方にとってはとても新鮮で魅力的に映るかもしれません。

気づいたこと、疑問に感じたことは、ぜひ家族や近所の方にお話したり、図書館やインターネットで調べてみましょう。別の視点に触れることで、遊佐町の新たな一面を知るきっかけとなるはずです。

(2) 行動を起こしてみよう！

自分の暮らすまちを知り、どんな場所なのか感じる事ができたら、その場所をどのように守りたいか？活かしたいか？を考えながら、未来へつながら行動を起こしてみましょう。

また、町内だけではなく、町外へ広がる行動も考えられます。素敵な写真が撮れたら県外の友人に送ってみる、SNS等を活用して遊佐町の魅力を広く情報発信する等、様々なツールを使ってまちづくりへ参画してみましょう。

(例)

- 美しい景観を守るため、道に落ちているゴミを拾ってみる。
- 歩いて気持ちいい地域にするため、花壇の花を手入れしてみる。
- まちづくりに関するアンケートが届いたら回答してみる。
- まちづくりや歴史に関するセミナーに参加し、参加者の方と話してみる。
- 地域のお祭り等に積極的に参加し、色々な年代の方と話してみる。
- SNS等により、まちの資源や景観を紹介してみる。

【おわりに】

都市計画マスタープランは、様々な分野から「遊佐町をより良くする」ための計画です。私たちの暮らしは、食べ物や住む場所、見える風景、人との関わり等、目に見えるものから見えないものまで、多くの物事がつながって成り立っています。その暮らしを、今日より明日、明日より明後日と、一歩ずつでも「良い未来」へ近づけていきたいと考えています。

「来てよかった」「住んでよかった」と思える遊佐町をめざして、できることから一つずつ、ともにまちづくりを進めていきましょう！